

# 鎌倉女子大学創立 80 周年記念講演会

[2023年10月4日(水)～12月6日(水)]



主催

鎌倉女子大学学術研究所

## ご挨拶

鎌倉女子大学学長 福井 一光

2023年（令和5年）、鎌倉女子大学は、創立80周年を迎えることになりました。

1943年（昭和18年）に小さな産声をあげた学園も、社会の皆様のご理解とご支援により、幾多の苦難を経ながらも、今では幼稚部・初等部・中等部・高等部・短期大学部・大学・大学院と、一貫教育の出来る総合学園として、お蔭様で大きく成長することが出来ました。

ちょうどミレニアムの年、2000年（平成12年）に開設された当学術研究所も、大学院児童学研究科・家政学部（家政保健学科／管理栄養学科）・児童学部（児童学科／子ども心理学科）・教育学部（教育学科）・短期大学部（初等教育学科）の研究活動を推進する中核機関として着実に発展を重ね、教育活動を支えるための質量共に充実した研究成果を学内外に発信してきました。

こうして、鎌倉女子大学は、今では我が国有数の女子大学の一つとして日本高等教育評価機構の認証評価においても際立って高い評価を得、また内閣府からも「科学技術政策フェロー推薦機関」に認定され、この先の創立100周年を目指して、日本のトップクラスの女子大学になる確かな兆しも十分に見えてきました。

この度、こうした夢にあふれる展望をいっそう確実なものにしようという決意を込めて、本年秋 Semester 期間中に、学内外の優れた研究者を招聘し、「持ち回り講義」の形式で、各種学術講演会を開催することにしました。

企画のコンセプトは、本学の学術資源である家政学・保健学・栄養学・食品学・衛生学・児童学・心理学・教育学・保育学・福祉学等々といったフィールドに視座を置きながら、これからの時代の動向と社会の性格、その歴史的・社会的現実の上に繰り広げられる人間の営みを能う限り見定め、未来において私たちが享受し、共有し得る新たな視界を切り開こうとするものです。

皆様におかれましては、講演者各位の学術パフォーマンスに是非ご期待ください。

## プログラム

### 鎌倉女子大学創立 80 周年記念講演会

コーディネーター

鎌倉女子大学学術研究所所長 廣田 昭久 氏

#### ○第1回／10月4日(水) パネルディスカッション

これからの社会と子育て・教育・キャリア

モデレーター

鎌倉女子大学学術研究所教授 福井 文威 氏

パネラー

鎌倉女子大学家政学部教授／家政学部長 大石 美佳 氏

鎌倉女子大学児童学部教授／児童学部長 佐藤 淑子 氏

鎌倉女子大学教育学部教授／教育学部長 漆間 浩一 氏

#### ○第2回／10月11日(水) 行動栄養学とはなにか？

— モノから人への栄養学のパラダイムシフトを考える —

講師：東京大学名誉教授 佐々木 敏 氏

司会：鎌倉女子大学学術研究所所長 廣田 昭久 氏

#### ○第3回／11月4日(土) みどり祭特別講演

人間にとって学びとはなにか

— ゴリラの眼でみた人間社会 野生に学ぶ「未知の世界」の生き方 —

講師：総合地球環境学研究所所長 山極 壽一 氏

司会：鎌倉女子大学児童学部教授 保坂 和彦 氏

#### ○第4回／11月29日(水) 保育者の専門性に関する社会的認知

— その歴史的変遷と現在の課題 —

講師：鎌倉女子大学短期大学部教授／短期大学部学部長 小泉 裕子 氏

話題提供：鎌倉女子大学幼稚部部長 森本 壽子 氏

司会：鎌倉女子大学学術研究所所長 廣田 昭久 氏

#### ○第5回／12月6日(水) バーチャルリアリティと自己実現

講師：東京大学大学院情報理工学系研究科准教授 鳴海 拓志 氏

司会：鎌倉女子大学学術研究所所長 廣田 昭久 氏

第 1 回 の 開 催 時 間：17時40分から19時30分

第 2・4・5 回 の 開 催 時 間：17時40分から19時10分

第 3 回 の 開 催 時 間：13時00分から14時30分 (みどり祭特別講演)

毎 回 の 開 催 場 所：鎌倉女子大学大船キャンパス教室棟3階大講義室

## モデレーター・パネラー及びパネルディスカッション概要の紹介

第1回／10月4日(水)17:40～19:30

パネルディスカッション

これからの社会と子育て・教育・キャリア

モデレーター

学術研究所教授 福井 文威 氏

### 【略歴】

東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。日本学術振興会特別研究員 DC、政策研究大学院大学助教授、コロンビア大学フルブライト研究員等を経て現職。その他、内閣府科学技術政策フェロー、名古屋大学高等教育研究センター客員准教授などを歴任。主な著作として、『米国高等教育の拡大する個人寄付』東信堂（単著、第17回日本 NPO 学会賞優秀賞、第8回日本教育社会学会奨励賞受賞）、*Handbook of Higher Education in Japan*, Amsterdam University Press, 2021.（分担執筆）他。

パネラー

家政学部教授／家政学部長 大石 美佳 氏

### 【略歴】

奈良女子大学大学院人間文化研究科生活環境学専攻（博士課程）単位取得満期退学。専門分野は家族関係学、研究テーマは女性の生涯発達。神奈川県のある大学における男女共同参画推進プログラム検討委員会委員、日本高等教育評価機構評価員などを歴任。家庭生活アドバイザー。主な著作として、「大学生の自立の構造と実態—自立尺度の作成—」（『日本家政学会誌』共著）、「親と子どもの自立を支援する」（『教育と医学』単著）、『新しい家族関係学』建帛社（共著）、『現代家族を読み解く12章』丸善出版（共著）、『家庭生活の支援—理論と実践—』建帛社（共著）他。

児童学部教授／児童学部長 佐藤 淑子 氏

**【略歴】**

ハーバード大学教育大学院修士課程修了。ロンドン大学教育大学院博士課程修了。Ph.D. (教育学)。  
主な著作として、『イギリスのいい子 日本のいい子』中公新書 (単著)、『日本の子どもと自尊心』  
中公新書 (単著)、「ワーク・ライフ・バランスと乳幼児を持つ父母の育児行動と育児感情 - 日本と  
オランダの比較 -」(『教育心理学研究』単著)、「シニア世代の子育て支援と「世代性」の発達」(『鎌  
倉女子大学学術研究所報』共著) 他。鎌倉市男女共同参画推進委員会委員長。

教育学部教授／教育学部長 漆間 浩一 氏

**【略歴】**

横浜国立大学教育学部卒業。横浜国立大学中学校教諭・校長、横浜市教育委員会指導主事・学校教育部長・  
横浜市教育センター所長・指導部長・教育次長を経て現職。その他、評価規準・評価方法等の研究開  
発に関する検討委員 (国立教育政策研究所教育課程研究センター)、中央教育審議会初等中等教育分  
科会教育課程部会教科別専門部会 (中学校社会) 専門委員。主な著作として、『社会科授業のコツ&  
アイデア 40』学事出版 (単著)、『中学校新地理のファックス教材集』明治図書 (共著)、中学校教科  
用図書『社会科中学生の地理』帝国書院 (共著)。

## 【パネルディスカッション要旨】

先進諸国における人口減少と少子高齢化、デジタル技術の急速な進歩、グローバル化の波により、現代はVUCA時代（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）とも形容されるような、変化が激しく、先行きが不透明で予測困難な時代へと突入してきている。

このような時代環境の中において、人の幼少期から老齢期の過ごし方も変化し、子育て、教育、キャリアのあり方も多様になってきた。大学もまた、教育のみならず、研究、社会貢献活動を通じて、知識基盤社会に寄与する役割がますます求められてきている。

本パネルディスカッションでは、これからの社会における子育て・教育・キャリアに焦点を当て、そこにはどのような特質や課題があるのか、近年の学術研究の知見を踏まえながら検討していきたい。また、これらの課題に対して今後、大学は、どのような貢献ができるのか探究したい。

【メモ】

## 講師・講演概要の紹介

第2回／10月11日(水)17:40～19:10

講師：東京大学名誉教授 佐々木 敏 氏

### 【講演タイトル】

行動栄養学とはなにか？ — モノから人への栄養学のパラダイムシフトを考える —

### 【略歴】

名古屋市立大学、国立がんセンター研究所支所、国立健康・栄養研究所、東京大学大学院医学系研究科（教授）を経て、東京大学名誉教授。女子栄養大学大学院客員教授、藤田医科大学客員教授、大阪大学招聘教授、国立健康・栄養研究所客員研究員。京都大学工学部、大阪大学医学部医学科卒業（医師）。大阪大学大学院ならびにルーベン大学大学院博士課程修了（ともに医学博士）。2004年より4期（20年間）にわたり、厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会委員ならびにそのワーキンググループの座長を務めた。

### 【主な著書、論文他】

佐々木敏 『佐々木敏のデータ栄養学のすすめ』 女子栄養大学出版部

佐々木敏 『佐々木敏の栄養データはこう読む！』 女子栄養大学出版部

佐々木敏 『食事摂取基準入門— そのところを読む —』 同文書院

佐々木敏 『わかりやすいEBNと栄養疫学』 同文書院

Sasaki, S., Katagiri, A., Tsuji, T., et al., Self-reported rate of eating correlates with body mass index in 18-y-old Japanese women. *International Journal of Obesity and Related Metabolic Disorders*, 27, 1405-1410, 2003.

Sasaki, S., Yanagibori, R., Amano, K., Self-administered diet history questionnaire developed for health education: A relative validation of the test-version by comparison with 3-day diet record in women. *Journal of Epidemiology*, 8, 203-215, 1998.

Sasaki, S., Kesteloot, H., Value of Food and Agriculture Organization data on food-balance sheets as a data source for dietary fat intake in epidemiologic studies. *The American Journal of Clinical Nutrition*, 56, 716-723, 1992.

### 【講演要旨】

これまで栄養学は「食品に含まれる栄養素や物質は身体でどのように働く（機能する）か？」を追求してきた。しかし、食品に含まれる栄養素や物質は人が食べて（摂取して）初めて身体で機能する。お茶の中のカテキンは人が飲んで初めてカテキンとして機能する。つまり、食品と身体の間には「食行動」が介在している。食行動は食品の価格やその人の収入（経済）、入手可能性（環境）、その人の知識（教育）、その人が見聞きする情報などに左右される複雑系である。文化（食文化）も影響する。人には嗜好があり、食べる楽しみもある。これらを対象とし、食品と体内をつなぐ役割を果たす学問分野が行動栄養学である。

「栄養素と身体」といったいわばモノから見てきたこれまでの栄養学を「生きて生活している人」からの視点に変える栄養学のパラダイムシフトである。「和食」「健康食品」「生活習慣病予防」など身近な例をあげて行動栄養学についてわかりやすく紹介したい。



【メモ】

## 講師・講演概要の紹介

### ～ みどり祭 特別講演 ～

第3回／11月4日(土)13:00～14:30

講師：総合地球環境学研究所所長 山極 壽一 氏

#### 【講演タイトル】

人間にとって学びとはなにか

ー ゴリラの眼でみた人間社会 野生に学ぶ「未知の世界」の生き方 ー

#### 【略歴】

京都大学理学部卒業、同大学院理学研究科博士課程単位取得満期退学、理学博士。(財)日本モンキーセンター、京都大学霊長類研究所、同大学院理学研究科教授を経て、2020年まで京都大学総長。国立大学協会会長、日本学術会議会長、日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長、内閣府総合科学技術・イノベーション会議委員、環境省中央環境審議会委員を歴任。現在、総合地球環境学研究所所長。

#### 【主な著書、論文他】

山極壽一 『猿声人語』 青土社

山極壽一 『京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと』 朝日新書

山極壽一 『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』 家の光協会

山極壽一 『スマホを捨てたい子どもたち』 ポプラ新書

Yamagiwa, J., Evolution of hominid life history strategy and origin of human family. In Furuichi, T., Yamagiwa, J., Aureli, F. (Eds.), *Dispersing Primate Females: Life History and Social Strategies in Male-Philopatric Species*, pp. 255-285, Springer, Tokyo, 2015.

Yamagiwa, J., Evolution of community and humanity from primatological viewpoints. In Yamashita, S., Yagi, T., Hill, S. (Eds.), *The Kyoto Manifesto for Global Economics: The Platform of Community, Humanity, and Spirituality*, pp. 329-357, Springer Nature, Singapore, 2018.

Yamagiwa, J., Resilient features which humans inherited from common ancestors with great apes and strengthened. In Nara, Y., Inamura, T. (Eds.), *Resilience and Human History: Multidisciplinary Approaches and Challenges for a Sustainable Future*, pp. 1-11, Springer, 2020.

#### 【講演要旨】

学びはどんな動物にもあるが、教育はほぼ人間だけに見られる行為である。それは、学ぶ側と教える側に知識や技術の差があるかを認識していることと、自分の犠牲を払ってでも教える意識を持つ必要があるからである。教育は人類の祖先が熱帯雨林を出て、食物が分散し肉食獣の多い草原で生き抜くことによって高めた共感力を原資としている。集団の規模を拡大していく過程で、家族と複数の家族を含む共同体という重層構造の社会を作り、共同の育児を始めたことがその端緒になっている。人間の子どもには成長過程で離乳期、思春期という類人猿にはない期間を経る。この時期はそれぞれ世界が自分を迎えてくれる、他者の視線の中で自己を確立するという試練がある。それには身体の共鳴による学びが不可欠である。現代の教育は果たしてそれをうまく子どもたちに経験させているかどうか、考えてみたい。

【メモ】

## 講師・話題提供及び講演概要の紹介

### 第4回／11月29日(水)17:40～19:10

講師：鎌倉女子大学短期大学部教授／短期大学部学部長 小泉 裕子 氏

話題提供：鎌倉女子大学幼稚部部長 森本 壽子 氏

#### 【講演タイトル】

保育者の専門性に関する社会的認知 ― その歴史的変遷と現在の課題 ―

講師：鎌倉女子大学短期大学部教授／短期大学部学部長 小泉 裕子 氏

#### 【略歴】

東京学芸大学卒業後、12年間教諭として幼稚園に勤務。育児中にキャリアアップを目指し横浜国立大学大学院進学、以降幼児教育研究者の道に進む。修了後、鎌倉女子大学児童学部児童学科及び大学院教授を経て、現在は短期大学部学部長。厚生労働省社会保障審議会福祉文化会委員、神奈川県青少年問題協議会委員、鎌倉市児童福祉審議会委員、鎌倉市子ども子育て会議副座長、茅ヶ崎市子ども子育て会議委員長等を歴任。

#### 【主な著書、論文他】

近喰晴子・小泉裕子（編著）『保育内容人間関係』 中央法規出版

小泉裕子・園田巖（編著）『教育・保育実習テキストブック』 建帛社

小泉裕子 「保育思想・保育施設の歴史Ⅱ」 大沼良子・榎沢良彦（編著）『シートブック 三訂 保育原理』 建帛社

小泉裕子・佐藤康富（編著）『ヴィジブルな保育記録のススメ』 鈴木出版

小泉裕子 「保育内容の歴史的変遷」 石川昭義・松川恵子（編著）『保育内容総論 第2版』 中央法規出版

小泉裕子 保育現場における ICT 化の有効性について：スマートデバイスを活用した保育園における導入効果。鎌倉女子大学紀要, 26, 1-14, 2019.

小泉裕子他 日本版 Learning Stories (保育者版・保護者版) のモデル開発とアクションリサーチ。鎌倉女子大学学術研究所報, 19, 1-12, 2019.

小泉裕子他 保育者アイデンティティの形成過程。鎌倉女子大学学術研究所報, 16, 13-20, 2016.

話題提供：鎌倉女子大学幼稚部部長 森本 壽子 氏

#### 【略歴】

日本女子大学児童学科を卒業後、私立幼稚園や札幌の公立幼稚園に勤務。その間、JICA の青年海外協力隊員として、中米にある「ホンデュラス共和国」に2年間赴任し、幼児教育者たちへの指導を行う。2005年からは、インドネシアのジャカルタ日本人学校幼稚部に園長として赴任。4年間勤務する。帰国後は、私立幼稚園や保育園にて園長を務め、2013年より、鎌倉女子大学幼稚部長として勤務すると共に、2019年より鎌倉女子大学短期大学部初等教育学科教授として、環境を主とした授業を担当。この間、鎌倉私立幼稚園協会の会長を務めたり、神奈川県私立幼稚園連合会の各支部の研修会で講演会を行ったりしている。日本造形教育振興協会理事、造形教育をもりあげる会副会長を歴任。

## 【主な著書、論文他】

森本壽子 『さようならジャカルタの幼稚園』 柏艸舎

森本壽子 『こひつじハイル』 柏艸舎

小泉裕子・佐藤康富（編著） 『ヴィジブルな保育記録のススメ』 鈴木出版に、実践記録の提供

小林保子他（監修） 『保育内容：環境』 アローウィンの DVD 制作に、保育現場の撮影協力

小林保子・松橋圭子（編著） 『環境をデザインする』 学苑社の中で、写真や実践例を担当

森本壽子 「「環境」における保育者の関わり」 佐藤康富（編著）『探究心を育む保育内容「環境」』 大学  
図書出版

<共同研究・学会発表など>

- ・「ニュージーランドのラーニングストーリーから、学ぶもの」というテーマで、本校の大学教員と共にニュージーランドを視察するなどして、共同研究を行う（2016）。
- ・第12回幼児教育実践学会にて、「幼児教育の在り方を問い直す」というテーマで、東京大学名誉教授の佐伯胖氏と共に発表し、研究発表賞を頂く（2021）。
- ・日本保育学会第76回大会にて、「子どもが主体性・創造性を発揮する表現活動の実際」というテーマで、ポスター発表（2023）。共同発表者（幸喜健、上田陽子、府川汐莉）。
- ・第67回造形教育研究大会にて、幼稚部の作品展の様子を発表（2023）。共同発表者（府川汐莉）。

## 【講演要旨】

戦後の新学制の導入と共に、就学前の子どもの保育・教育を担うべく「幼稚園」や「保育所等」の制度が整備された。それらは、家庭の養育では得られない社会・文化・自然などに触れる幼児期の教育等の施設として位置づけられ、それらに携わる「保育者」については、専門の教育を受け一定の国家資格を有し、公共の福祉や教育に貢献する専門職とされた。

一方、「保育職は専門職である」という確固たる社会的概念は必ずしも得られているとは言えない現状があった。20世紀終盤に編纂された『現代保育用語辞典』（1997）では、「保育の専門性の確立を阻む最大の要因は、保育は女性なら誰でも出来るとする世間通年である。」との記述がみられた。ところが、平成以降の少子化・核家族化・情報化等による社会の変化は、保育者の役割への期待を一変させるファクターとなった。子どもの発達の基盤を形成する家庭や地域の養育力低下が論じられる中、その役割は多様化・広範化し、それに応じる高度な知識と技術をもった専門職として社会からの期待が高まっている。保育者の「専門性」への期待が本格化する現在、高度な専門職としての社会的認知をどう高めていくのか。保育の「専門職性」について、その歴史的変遷を踏まえつつ新たな課題について再考する。

## 【メモ】

## 講師・講演概要の紹介

第5回／12月6日(水)17:40～19:10

講師：東京大学大学院情報理工学系研究科准教授 鳴海 拓志 氏

### 【講演タイトル】

バーチャルリアリティと自己実現

### 【略歴】

東京大学工学部卒業、東京大学大学院学際情報学府修了。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士（工学）。東京大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻助教、講師を経て、2019年より准教授、現在に至る。JST さきがけ研究者。日本バーチャルリアリティ学会理事。

### 【主な著書、論文他】

鳴海拓志 Being Transformed から Cybernetic Being へ：人間拡張における物語的転回。人工知能学会誌, 38(4), 454-463, 2023.

鳴海拓志 ゴーストエンジニアリング: 身体変容による認知拡張の活用に向けて。認知科学, 26(1), 14-29, 2019.

### 【講演要旨】

バーチャルリアリティやメタバースでは、バーチャル空間における身体であるアバタを、その外見だけでなく身体構造や機能まで自由に設定することができる。こうした実際の身体とはかけ離れた特性を持ったアバタを操る新しい体験は、自分自身に対する認識を変容させ、感覚、行動、そして発揮能力や思考までも変容させることが明らかになってきた。講演者は、そのような身体変容体験に伴って現れるところや自己認識への影響を積極的に活用することで自在なところのあり方を支援する技術を「ゴーストエンジニアリング」と呼び、研究を進めてきた。本講演では、その研究事例を紹介するとともに、技術やサービスによって自らのところや能力を即時的に拡張できることと長期的視座から形成される人生の物語（物語的自己）の関係を探る研究についても紹介し、この種の技術が教育や発達、自己実現に与える影響を議論する。

【メモ】

【メモ】



【メモ】

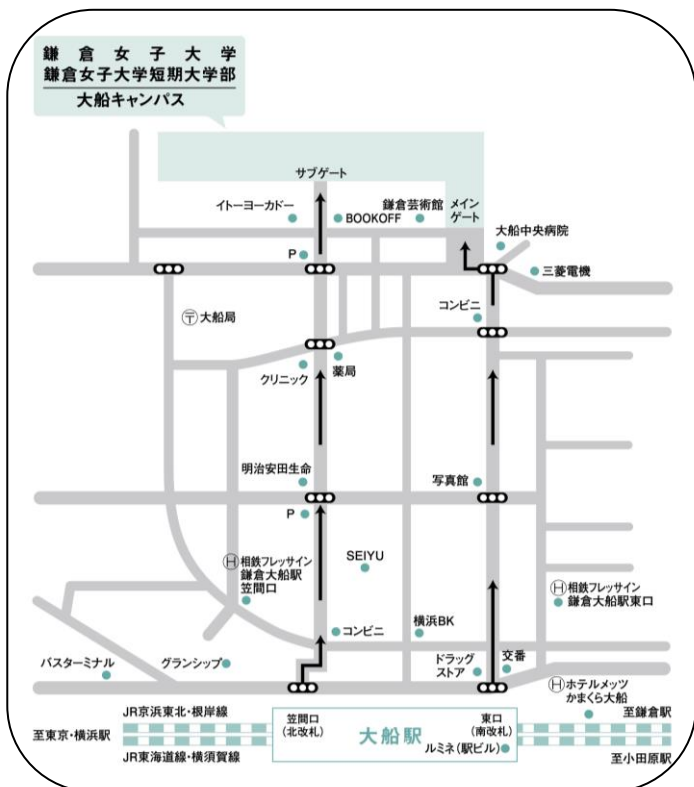


## ■ 鎌倉女子大学 大船キャンパス (アクセス)

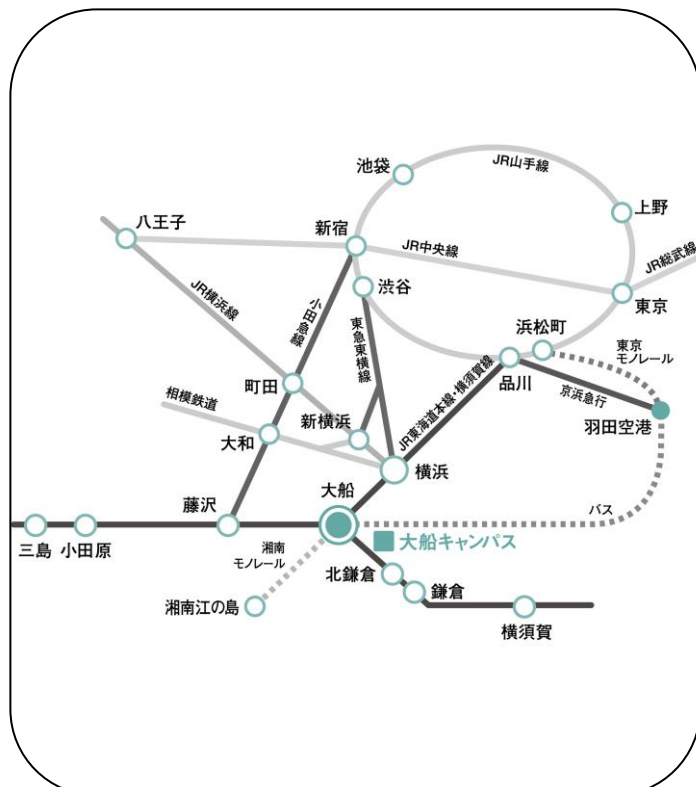
〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船六丁目1番3号

JR 東海道本線、湘南新宿ライン、横須賀線、京浜東北・根岸線、湘南モノレール「大船駅」下車  
東口または笠間口から徒歩8分

### 大船駅からのアクセス



### 路線図



## ■ 問い合わせ先

鎌倉女子大学学術研究所

〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船六丁目1番3号

TEL 0467-81-4002 (直通)

0467-44-2111 (代表)